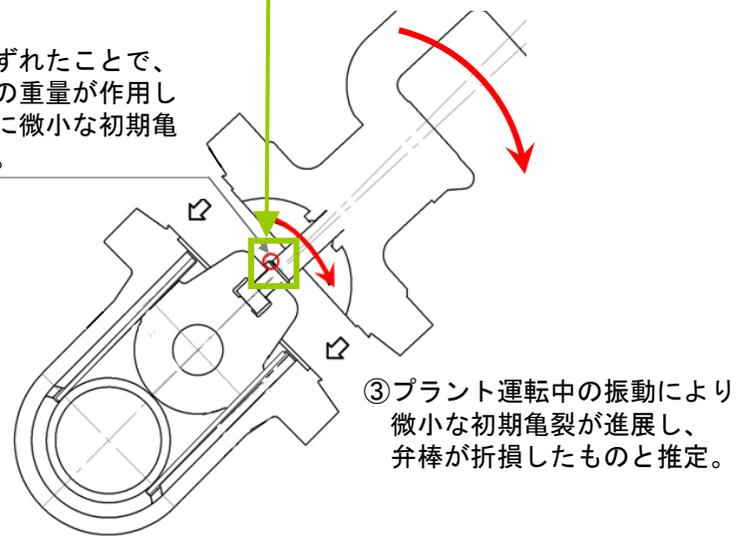


- ① 弁組み立て時、弁体に対して弁棒の傾きがずれた。
- ② 弁棒の傾きがずれたことで、弁棒に駆動部の重量が作用したため、弁棒に微小な初期亀裂が発生した。



- ③ プラント運転中の振動により微小な初期亀裂が進展し、弁棒が折損したものと推定。

【対策】
 弁分解・組み立て時に角度計を設置し、角度管理を行い、駆動部の重量が弁棒に作用しないようにする。

原子炉隔離時冷却系蒸気管内側隔離弁における不具合及び対策概要図